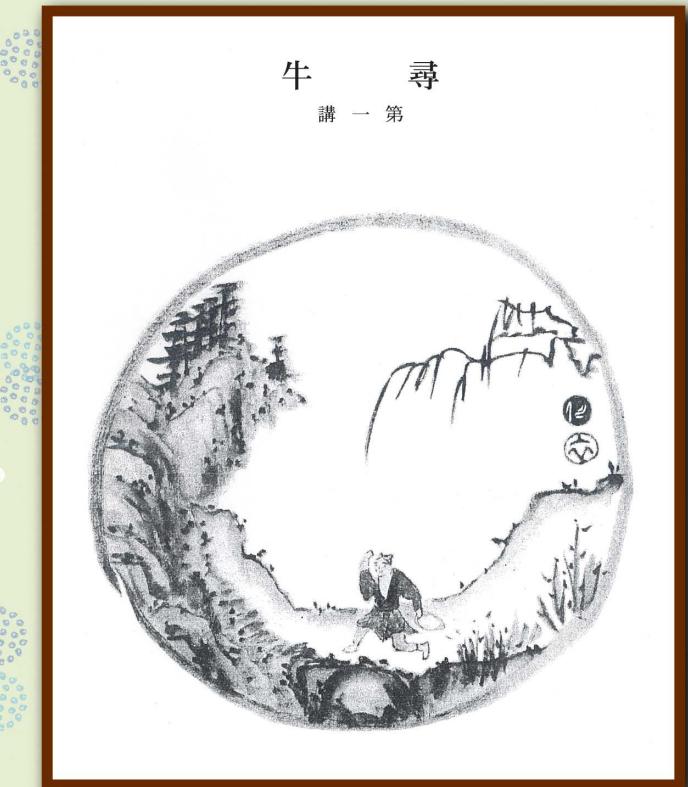




題字 瑞龍寺 起龍軒老大師



牛尋
講一第

第40号

平成27年7月10日
発行：臨済宗妙心寺派
北海道教区

おかげさま

ー社会の恩ー¹
生かされ支えられ

平成二十七年度花園会推進テーマ

十牛図 第一講 「尋牛」
札幌市 瑞龍寺 起龍軒老大師

「たずねゆく みやまの牛は見えずして
ただ空蝉の声のみぞする」

今から九百年の昔、廓庵禪師が「仏道」をわ
かりやすく表す為に、十の牛の図を描き、更に
それぞれに漢詩を付し、日本に伝わって和歌も
付されました。世に云う「禪宗四部録」の一
部である「十牛図」です。

十の図の全体概略はこうです。最初に一人の
牧童がいて、牛を尋ねんとして遠く山に入り行
き、まずははじめに牛の跡を発見し、次に牛の半
身を見つけ出しこれを捉え、手なずけ我が家に
帰るのですが、更に物語として発展し、牧童は
捕まえた牛を忘れ、ついに自分自身も忘れ、何
もかも悉く忘じ尽くして無我の境に入りながら
町に出て生活し、世間の人々とともに働いている
圖を以つて終わっております。

これらの図は禪による修行の次第を表しています。
つまり、最初の図より宗教的追求を体験
味得して「仏心」＝「本来の自己」を発見するこ
とがあります。

私も昔、長い修行時期がありました。世間
並みの自我欲や物欲がありました。だが集団の
修行生活の中では始めから否定されます。毎日
が悶々と悩み苦しみの日々です。世間の思惑は
通じない世界です。私にとてここからが「仏心」
を発見する旅の始まりでした。

「ここにはお寺との「縁」が無ければ成り立ちま
せん。仏の教えを実践して、ただく為にも法要
はもとより坐禅・写経・御詠歌・奉仕等に積
極的に関わって仏道に入つていただきます。

深山の牛を訪ね求める道を探して「仏心」を
自覚する修行も今は一人一人必要です。

本年九月は札幌で「全国奉詠大会」が開催さ
れます。まずは「ご縁」として数多くの花園会
員様の参加をお願い申し上げます。

○ ちょっとイイ話し ~Part1~ ○

教区内の諸老宿始め花園会員の皆様には日頃より教区運営発展のため、ご尽力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

昨年は、女性部、青壯年部を中心とした花園大会に悪天候にもかかわらず、沢山の会員の皆様が参加されましたことに深く感謝申し上げます。

今年は、教区としての大きな事業はありませんが、九月二十八、二十九日の二日間に無相教会全国奉詠大会が札幌で開催されることになります。登壇される会員の皆様は練習に励んでおられることと思いますが、会員以外でも見学できますので、希望される方は教区内の事務局までご連絡下さい。

また、来年六月七日、八日の二日間に帯広大乗寺さまで、峯興嶽管長貌下をお招きして定期御親化授戒会が開催されます。

授戒会は五年に一度の開催となりますので参加を希望される方は今から準備をしておいて下さい。詳細が決まり次第お知らせいたします。

なお、参加費としては二万円を予定しております。部内の支所長さんにご連絡をお願いいたします。



「お盆を迎えて」

岐阜西教区 多福寺 飯沼宗秀

お盆がやってきた時、小学二年生の女の子が祖父母にある質問をしました。しかし祖父母は、何と答えていいのか戸惑いました。そこで、「もうすぐ和尚さんが来てくれるから、その時に聞いてみようか。」ということになりました。

私がそのお宅にお伺いし、盆経（棚経）を終えると、早速おばあさんが質問をしてきました。

実は、ここにいる孫娘が聞くんです。十三日には迎え火を焚いてご先祖さまをお迎えするし、十五日には送り火

お盆を迎えたたら、ぜひご先祖さまとお話ををしてみて下さい。もちろん毎日の



◆ ごあいさつ ◆

鷹栖町 田中寺 宗務所長 船橋佳山

「ごあいさつ」

北海道教区宗議会議員 霧多布正宗寺住職 松浦明恭

「同心同行の花開け」

北海道教区第一部 岩見沢市明心寺

「教区寺庭婦人会会長就任の挨拶」

岩見沢市 明心寺寺庭 徳重千尋

新緑が辺り一面を染め、高揚感沸き立つ季節を迎えました。花園会員皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げ、日頃のご精進に敬意と感謝を申し上げます。

さて、今年九月に札幌で、私たちの教区にとって恐らく最初で最後となる「無相教会全国奉詠北海道大会」が開催されます。

私のお寺も登壇を目指しています。支部結成八年、会員数二十二名、五十代から八代の女性たちが月三回、夜七時の練習に山門を潜ります。その中に七人の漁業関係者がいます。盛業期には暗闇の中を家族の誰よりも早く布団を抜け出し、朝から晩まで額に汗するご婦人達です。ですから、ご詠歌の練習中に眼を擦ること度々ですが、それでもなお「お寺に来ることが楽しい」と言って、通ってくれます。

法要の度に御詠歌の歌声が本堂を包み、参拝者の心に響きます。唱える人も聞く人も、わかりやすい仏の教えに出会う瞬間です。秋の札幌コンサートホールに花園会道心同行の花開けと念じ、教区皆様のご声援の花びら舞うことを願っています。

これまで役員経験も皆無ですし、また寺庭としても知識経験共に未熟な若輩者ですが、この重責を全うできるものかと少々心配しております。しかし、宗門隆盛と寺門興隆、そして檀信徒教化のため住職を補佐扶助すべきものとして、「寺の庫裏を預かる女性」の責任の自覚と地位の向上は、これまで以上に大切なものであると実感いたしております。

至らない点、ご迷惑をお掛けする点も多々あることと存じますが、副会長さんをはじめとする役員の皆さんに助けられながら、諸先輩方々の功績を無にしないよう二年間の任期を精一杯励んでいく所存であります。

皆様にはどうか、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

この度、北海道教区寺庭婦人会会长を務めさせて頂くことになりました。北海道教区第一部、岩見沢市明心寺庭の徳重千尋と申します。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

本来であれば昨年の教区寺庭婦人修会とともに開催される総会にて会長職が選任される予定でございましたが、台風のため中止となり、教区尊宿役員の御推挙ご指名で急遽会長職をお引き受けすることと相なりました。

これまで役員経験も皆無ですし、また寺庭としても知識経験共に未熟な若輩者ですが、この重責を全うできるものかと少々心配しております。しかし、宗門隆盛と寺門興隆、そして檀信徒教化のため住職を補佐扶助すべきものとして、「寺の庫裏を預かる女性」の責任の自覚と地位の向上は、これまで以上に大切なものであると実感いたしております。

至らない点、ご迷惑をお掛けする点も多々あることと存じますが、副会長さんをはじめとする役員の皆さんに助けられながら、諸先輩方々の功績を無にしないよう二年間の任期を精一杯励んでいく所存であります。

皆様にはどうか、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

○ ちょっとイイ話し ~Part2~ ○

今年、春季定期布教の任命を受け、北海道教区に派遣され、道東の五ヶ寺を巡教させて頂きました。公私ともに初めての渡道。大変期待して参りましたところ、開教寺院さまにおかれましては聴衆の皆様が熱心に聴聞して下さると共に、ご住職様をはじめ檀信徒各位には一方ならぬご親切をいただき、おかげさまで無事日程を終え離道することが出来ましたこと、あつくお礼を申し上げます。

さて、本年のテーマ「おかげさま」という言葉は日本人のひとつ的心情を表す言葉であると同時に、仏教の基本的な教えもそこにあります。私たちが日常使っている「ありがとう」という言葉はどう、「おかげさま」という言葉はどちらも感謝を表す言葉ですが、目に見える相手から直接的に受けける恩恵に対し「ありがとう」であるのに対し、「目に見えない特定できないさまざまな相手」から、直接的間接的に受けれる恩恵に対して感謝を表す言葉が「おかげさま」であるとして、微妙に使い分けております。

人間が社会的生活を営む上で父母の恩だけが全てでないことは、言うまでもありません。社会から、自然界

シリーズ こころの時間



『今日一日のおしえ』
今日一日、不足は言わない
今日一日、決して腹をたてない
今日一日、嘘を言わない
今日一日、自分の自慢をしない
今日一日、業務を大切につとむ
何事でも今日一日です。今日一日の積み重ねが一生です。まず今日一日から始めましょう。

から、三宝（仏道）から受ける恩は無量であり、それらを総称して仏教では「四恩」と称します。
人間が生きるとすることは纖維の縦糸と横糸の関係に例えることが出来ます。縦糸には父母や家系の関わりがあり、横糸には友人に始まる社会のさまざまな関わりのみならず、自然環境や、三宝（仏道）との関わりをも含み、それら全ての中で「生かされ支えられ」ということを教えられます。

「おかげさま・社会の恩」

静岡市浜松市 龍梅寺住職 木村文達

◆ Temple テンプル Temple ◆

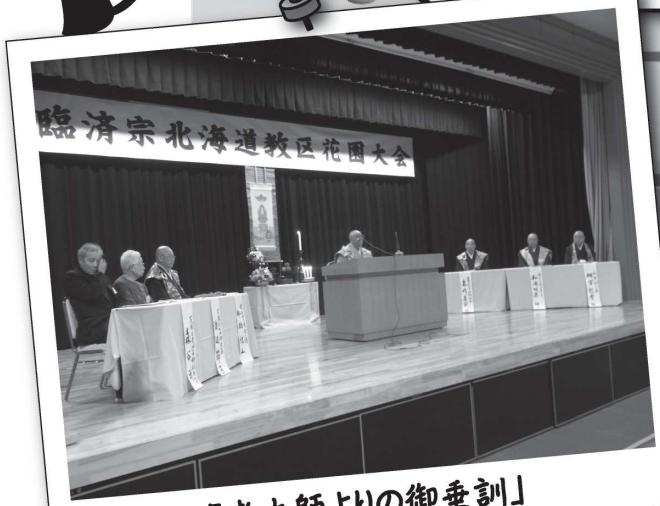
寺院名	真狩山 全宗寺 三等地 一級
宗派名	臨濟宗 妙心寺派（靈雲派）
所在地	虻田郡留寿都村字留寿都一一八
現住職	伊藤 明詮（道号、文祥 謹名、明詮） 昭和二十七年九月一日生
開創	明治三十三年
本尊	釈迦牟尼佛
創建開山	大江泰山
歴代住職	上野 全孝・岩上 宗廸・水口 全哲 船場 全密・田中 弘国・工藤 一超
勸請開山	前住妙心大円全孝大和尚



全宗寺のある留寿都村は「蝦夷富士」と呼ばれる羊蹄山の麓。言わずと知れた「ルスツリゾート」の街。人口は約二千人。夏になると全道各地より遊園地へ人が集まります。基幹産業は農業でジャガイモやアスパラは有名。意外と知らないのが、大根の生産量が全道一である。現住職は伊藤明詮師。お酒が大好きだったが娘に言われて禁酒中という優しいお父さんの一面も。不定期に「閑亭坐禅会」を開催している。

No.1 全宗寺
わら道産子 臨濟宗寺院

平成26年度 北海道教区 花園大会



「老大師よりの御垂訓」



「女性部会長・渡邊節子さん」



「心にしみる旭山動物園園長の講演」



「色即是空・・・」



「全道より107名の花園会員が集まりました」



「大会長・船橋佳山師挨拶」

前花園会女性部会長 渡邊節子

私は子供の頃、「上野動物園」の近くに住んでいました。昭和十六年十二月八日戦争が始まり、昭和二十年八月十五日に終戦。
戦争中に象やライオン・キリンと毎日のように毒殺したとラジオのニュースで聞き、その呻き声に耳を塞いだ経験が、未だに忘れることが出来ません。

人間の身勝手により、たくさんの命が抹殺されてしまった動物園には特別の思ひ入れがあります。
この度の講師である、旭山動物園・板東園長さんの深い愛情に包まれている動物たちは、大変幸せで良い時代に生まれ皆様に可愛がられています。「平和」がどんなに世界中を笑顔にしてくれるものかを良く理解できました。
演題「命の輝き」本当にありがとうございます。私の心から何かが消え、毎日が楽しくなりました。

今は毎日のように介護ヘルパーの仕事をして、利用者さんから「おばちゃん」と呼ばれています。私の心から何かが消え、毎日が楽しくなりました。

合掌

平成二十六年十月二十八・二十九日の両日、層雲閣グランドホテルで女性部・青壯年部主催の「花園大会」が開催されました。

管長代理には瑞龍寺・起龍軒老大心寺法務部長・島崎義範師、記念講演に旭山動物園園長・坂東元氏より多くの聴衆が感銘を受けました。他に坐禅・写経などで自己研鑽を積み、有意義な二日間となりました。

♥ 参加してきました ~本山教区の花園会活動~ ♥

昨年十一月一日札幌の瑞龍寺様にて秋季特別布教が開催されました。今回の布教師様は秋田・開得寺住職・新野建臣さんと言う方で、私にとっても大変懐かしい方でございました。

私が松島の瑞巖寺の修行を終え丁度自分の寺に帰る幾日か前に修業道場に入つて来たのが建臣さんでした。

聞くところ彼は二回目の修行の様で「二回も修行に来るなんて凄い人だな」と当時思つたものです。何日か一緒に僧堂で過ごしました。

秋の特別布教は主に寺院役員様の研修会であります。他の寺の役員さん方と御縁を結びお知り合いになつて頂くのも大変喜ばしい事であります。

瑞龍寺様では坐禅会の皆様と各寺院役員の皆様とで法話を拝聴させて頂きました。

誠に御縁とは不思議なものでござります。修業で知り合つた人々の御縁、檀家様方の御縁、友人、知人、無数の御世話になつた方々の御縁。

私も今年還暦を迎えます。この歳になりつくづく皆様方の御縁によつて生かされている事に気づく此の頃であります。

回を重ねる度に皆様お知り合いも

「本山研修で心のつぼみが」
霧多布正宗寺花園会会長 川守田貢

大本山妙心寺での本部研修「寺院役員研修会」は平成二十六年十一月、實に二十七年ぶりの京都の旅でもあつた。前日は妙心寺派宗務本所内を見せてもらつ。事務所あたりに大きな「役員名簿」の掲示板があつた。私どもの正宗寺・松浦明恭和尚の名前もあつた。

宗議会議員二期目・花園会館（ホテル）の運営委員長などの重責を担つており更に身近に実感した。

研修参加者は一二八名で「責任役員の役割・宗教法人とは・おかげさま運動・花園会の今後の活動」などが主な内容だ。

臨済宗妙心寺派の総寺院数は三三六三ヶ寺・有住寺院数は二三二六ヶ寺・兼務寺院数は一〇一〇ヶ寺である。

「平和と復興のいのり 私たちは忘れない」
前花園会女性部副会長 長江伶子

平成二十六年九月二十六日。南は沖縄、北は北海道より全国花園会員二五〇名が岩手県に集まりました。

第一会場は「花巻温泉ホテル千秋閣」。ホテル内での式典では慈恩寺住職・古山敬光師や陸前高田被災地の語り部・釣子明氏による特別講演がありました。

夢にも思はない大津波。六メートルもある防波堤を乗り越え家や人の命まで飲み込み、現実とは思えない光景のあり様、津波の恐ろしさを拝聴いたしました。

翌日バス三台でそれぞれ陸前高田へ。会場である「華蔵寺・慈恩寺・麟祥寺」へ別れ、一〇時三〇分より三ヶ寺同時「平和復興法要」が営まれました。

いまこうして平和であることは、亡くなられた尊い犠牲者の上にあることを決して忘れてはなりません。世界が平和でありますようお祈りいたします。

このような貴重な機会を与えて頂きましたことを、各寺院の和尚さま方、各地区で出会うことの出来た皆様方に感謝いたします。ありがとうございま

◆ こんな行事をしています ~各部の花園会活動~ ◆

第一部 秋季特別布教について

第一部宗務支所長 紺野泰善

昨年十一月一日札幌の瑞龍寺様にて秋季特別布教が開催されました。今回の布教師様は秋田・開得寺住職・新野建臣さんと言つ方で、私にとっても大変懐かしい方でございました。

私が松島の瑞巒寺の修行を終え丁度自分の寺に帰る幾日か前に修業道場に入つて来たのが建臣さんでした。

聞くところ彼は二回目の修行の様で「二回も修行に来るなんて凄い人だな」と当時思つたものです。何日か一緒に僧堂で過ごしました。

秋の特別布教は主に寺院役員様の研修会であります。他の寺の役員さん方と御縁を結びお知り合いになつて頂くのも大変喜ばしい事であります。

瑞龍寺様では坐禅会の皆様と各寺院役員の皆様とで法話を拝聴させて頂きました。

誠に御縁とは不思議なものでござります。修業で知り合つた人々の御縁、檀家様方の御縁、友人、知人、無数の御世話になつた方々の御縁。

私も今年還暦を迎えます。この歳になりつくづく皆様方の御縁によつて生かされている事に気づく此の頃であります。

平成二十六年度

増え和やかな研修会に成り、此れも各住職並びに副住職様、各役員皆様の御蔭と感謝するしだいです。今後とも秋季特別布教の御参加を心より御願い致します。

第二部活動報告

第二部支所長 大道寺 安川天堂

六月十三日（金）二部花園会女性部研修会が旭川市の洪岳寺にて行われました。

二部内の妙心寺派・相国寺派の女性部の方が四十六名ほど集まり午前中は洪岳寺のご住職の法話を一時間ほどお聞きしました。皆大変楽しくお話をお聞き致しました。お昼には皆楽しめのお弁当を会話も弾みながら頂きました。

午後からの研修会は洪岳寺の若寺庭さんと洪岳寺の女性部の方々がお地蔵さんの折り紙の指導をして下さいました。皆最初は難しく思われたのですが、若寺庭さんや女性部の方が各班について頂き和気藹々とお地蔵さんを作ることができましたし、出来た物は各自記念として持ち帰りました。

九時三〇分より三時までの間でしたけれど有意義に研修会を行えました。次回は鷹栖の田中寺さんで執り行う予定であります。

こんな行事をしています

第三部宗務支所長 中標津町 大慶寺住職 田中素裕

平成四年「まかぬ種は生えぬ」を合言葉に、当時もつとも懸念されていました「宗教離れ」解決のために、先輩住職様方が「僧侶としての生き甲斐・やり甲斐」をそこに求めた結果「第一次東臨済宗花園会少年少女研修会」が開催されました。

坐禅・法話・写経・作務（掃除）食事の作法等の禅寺体験。各地域密着型のイベントで二泊三日の超過密スケジュール。

昨年、大慶寺で開催された「第二十四回夏休み@禅寺スクール」では、初めて出会つた仲間達ともゆつたり仲良く遊びながら学べる、なんとも夏休みらしい研修会になりました。

近年、非社会的な新興宗教・カルト教団・テロリストに洗脳される若者の多くは、小さな頃から親が神社や寺院にも連れて行かないが為に、宗教に対して「免疫」を持たないことに起因すると考えられています。

将来のある子供達の為に「菩提の種・善い種を植える」チャンスであるとのご理解を頂き、一人でも多くの子供達の参加をお勧め頂くよう、ご協力をお願い致します。

「無相教会全国奉詠震災復興記念大会に参加して」

札幌市 瑞龍寺寺庭 皆川てる子

昨年十月十五日～十七日、全国奉詠大会が宮城県松島市にて開催されました。

「復興の祈り・私たちは忘れない」をテーマに、全国より三日間で三〇〇〇名近い参加者が集まりました。

私たちの登壇は十七日で晴天に恵まれ、会場は熱氣であふれています。

奉詠は二会場に分かれ、単独・合唱・同奉詠支部や楽器を取り入れての支那など独自の奉詠もあり、とても感激しました。

私は今回初めての参加で、合同での登壇奉詠をさせていただきました。練習の時間も少なく、第二部の寺庭さん・会員の皆さんに助けられ、緊張のなか無事奉詠が出来、十二名が一つの和になつたように感じられました。

今年の全国大会は札幌の「キタラ」が会場になります。多くの皆さんに参加していただき、日々の練習を発表できればと思っております。合掌



臨濟宗妙心寺派 花園流御詠歌

第65回 全国奉詠北海道大会

～無相教会創設80周年記念大会～



写真提供：札幌コンサートホール

日 時 平成27年9月28日(月)～29日(火)

会 場 札幌コンサートホール Kitara

主 催 無相教会本部

協 力 北海道教区

「音楽の似合う街」札幌に誕生したコンサートホール Kitara。大型のパイプオルガンや最新音響設備を備え、クラシックや御詠歌にも最適な美しい響きを生み出します。今大会は無相教会創設80周年記念大会となり、記念パーティーや多数のイベントを企画しております。無相教会本部、協力関係者一同、会員様にすばらしい感動を提供いたします。

～無相教会本部～

後編 記集

「第四〇号」
記念すべき会報
編集。こんなに
織細で膨大な仕事量に
ちょっとびり体力下降気味。
印刷屋さんの担当小田さ
んには良くしてもらい、何
回も釧路で打合せをした。
「思い」を「かたち」にす
るにはかなりのエネルギーを
必要とすることを改めて実
感しました。前回の編集
者、法眼寺さん・歴代の
教化主事の皆さんのご苦労
には心より敬服致します。

今回より「花園会員寄り
の会報に」というコンセプト
でしたが、果たして結果や
いかに…まだまだ改良す
べき点は山ほど有る。任期
中には何とか思いに近いも
に出来ればと考えております。
この度の会報に寄稿いただ
きました多くの皆様に深く
感謝申し上げます。合掌

(発行人) 船橋佳山
(編集者) 川邊正道 安川天堂
徳重寛道